



こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 6 号

令和6年6月21日発行

文責 校長 多久島 一仁

中体連激励会を行いました

6月19日（水）に中体連激励会を行いました。中学生の2名が、5月下旬からバドミントン部の活動を開始し、6月22日（土）に行われる県中学総合体育大会のシングルスに出場することになりました。

練習の期間は短いですが、新しい競技を始め、試合にも出場したいというチャレンジャー精神が素晴らしいと思います。そして、新たな加唐中学校のバドミントン部の歴史をスタートさせてくれたことに感謝します。

練習には社会人の方々にも来ていただき、様々な練習方法や技術などを教えていただきました。

中3生徒は、大会での抱負を、「自分らしいプレイをしたい」、中1生徒は「1ゲーム取れるように、遠くにシャトルを飛ばしたり、見極めたりしたい」と力強く話してくれました。

私は部活動を「課題解決学習」だと考えています。どのようにすればコントロールできるのか、相手に勝てるのかなどを常に考えていくことで、上達していくと思います。また、そうしたことが、その競技以外の生活や学習にも生かしていくことができると思います。負けてもそれを次に生かす、自分をさらにレベルアップさせ、何度でも挑戦できるところが部活動のいいところだと思います。

これからも二人の成長に期待したいと思います。



西山教頭先生のお話

6月19日（水）のほんわかタイムで、西山教頭先生から、「さが桜マラソンに参加して」と題してお話がありました。

最初に、フルマラソンの世界最高記録を持つケニアのエリウド・キプチョゲ選手の紹介をされました。彼の2時間1分9秒というのは最初、ピンときませんでした。50m走で言うと8秒6で42.195kmを走るのだと聞いたら、そのすごさがよく分かりました。



西山教頭先生は、さが桜マラソンに 45 歳で初めて走られたのを皮切りに、8 回も挑戦されています。最初は制限時間の 6 時間 30 分に間に合わず、悔しい思いをされましたが、その後は間に合うように走るぞ、と練習を重ねられ、以後はしっかりと完走されているとのことでした。

先生のお話の中で、大会を振り返ってみて、「感謝」という言葉が何度も出てきました。ボランティアの方、応援の方、高校生、警察官、大会実行委員会、様々な方が力を合わせて一つの大会が成功する、そうした大事なことを教えていただいたお話でした。

海洋ゴミからキーホルダーへ

6 月 8 日（土）にペットボトルのふたを細断し、溶かして型にはめ、キーホルダーを作る作業を行いました。これは、佐賀県が、すべての県民がプラスチックごみ問題に対する理解を深め、主体的にプラスチックごみの削減に取り組んでいくことを目指す「プラスマ Life さが（Plastic Smart Life さが）」を県民運動として展開されていて、その一環として実施したものです。

この事業は、県から委託を受けた「唐津ファームアンドフード」の方々が中心となっていてものです。5 月 30 日（木）には中学生が職員住宅付近の海岸清掃をし、そのゴミを分別して重さを量りました。最も重かったのは、プラスチックゴミで、26.8kg ありました。ペットボトルも唐津市のごみ袋（大）に 6 袋分、8.9kg ありました。

今回はこのペットボトルがどの国からのものかを調べました。国別で言うと、日本のものが最も多かったですが、全ての外国分を合わせると、日本以上の本数になりました。

キーホルダー作りは全校で行いました。

昨年度はどこからか流れ着いたプラスチックゴミのひとつである漁網が、かから丸のスクリューに巻きつくという事故もありました。また、加唐島や松島は漁業を営んでいる方も多いため、海洋汚染が即、魚等の生息に影響することもあり、とても身近で重大な問題です。

これからも私たち自身がこうしたことに関心をもつことで、加唐島や松島の海を美しく保ち、海の生き物も私たち島民も豊かな生活ができるようになればと思います。



